

和歌索引

- 1 和歌索引は各句から和歌を検索することができるようにするとともに、句及び句の語句に含まれている修辭についても示しました。
- 2 句の排列は五十音順をもって本文用字により、本文の頁数と歌番号を示しました。

たとえば

あかせるよはの 13-5

とあれば 13 頁にある歌番， 5 の歌です。

- あかせるよはの 13-5
あかつき露に 13-5
あかつきの 13-6
秋風の 95-52 (「秋」に「飽く」を掛ける)
あきのかぜ 95-53 (「秋」に「飽く」を掛ける)
秋のながき夜 34-26
あきをへて
—うつろひぬとも 12-2
—うつろふ心 11-1
あしたの雲の 91-49
あしひきの 15-9 (枕詞)
あだにたつ 91-49
あだ人の 12-2
あとなきかたの 95-53
あとのかなしさ 98-56
あはれとおもひ 36-28
あまつ空 71-37
あまつそらなる 90-47
あやなくかげぞ 90-47
あらたまの 16-11 (枕詞)
あらぬ光に 80-42
いかがまがへむ 90-48
いかがわすれむ 105-60
いかなりし 20-19
いかにものおもふ 12-3
いきのをに 18-14
いくへの雲の 20-17
いそがざらまし 89-46
いたづらに 13-5
いつとなく 80-42
いづれのうらの 120-71
いづれの山を 91-49
いつをかぎりの 42-33
いでつる月の 16-10
いとどおもひの 89-45
- いとど露けき 34-25
いとふくもりの 99-58
いなづまの 42-34
命にまさる 20-19
命をけふに 37-31
いのちをさらに 105-60
いふにもあまる 80-43
いらましものを 17-12
いる山までは 110-63 (「入る」に「居る」を掛ける)
色にいでぬる 72-40
色にもほひも 106-62
うかぶあわを 21-21
うきしづみ 118-69
うきたる恋に 103-59
うつつにて 42-33
うきてみる 89-46
うきめを見ずて 17-12
うつりなむ 111-65
うつろひぬとも 12-2 (「うつろひぬ」に「菊の色の変る」と「恋心の袖に出る」意を掛ける)
うつろふ心 11-1 (「うつろふ」に「菊の花の色が変る」と「恋心が顔色に出る」意を掛ける)
おきつしほあひに 21-21
おくとはなげく 72-40
おくりくらしも 22-22
おのづから 111-65
おほかたは 17-12
おほぞらの 36-29
おほみやの 11-1
おもかげさらぬ 21-20
おもかげの
—身にそふことは 72-39
—わすられぬべき 111-64

- おもひいる 117-67
 おもひおこせむ 20-17
 おもひをたびの 34-25
 おもふとはみむ 13-4
 おもふとも 72-39
 思ふにも 80-43
 およばぬ空に 71-36
 かぎりあらむ 105-60
 かぎりにて 95-52
 かぎるとも 37-31
 かげさだまらぬ 90-48
 かけてすぐさむ 38-32
 かげなれど 110-63
 かげはみえけり 117-67
 かすがなる 22-22
 かずそひし 72-38
 かぜもおよばぬ 33-23
 かぜもありこず 16-11 (「風の吹き通す」
 意に「噂がもれる」の意を掛ける)
 かなしけれ 80-42
 かなしともみる 36-28
 かばかりも 91-51
 かよひこずとも 111-65
 かよふらむ 21-20
 きしもせざらむ 59-35 (「きし」に「来し」
 と「岸」の意を掛ける)
 君が心し 18-14
 君にまどひし 120-71
 君のみことを 105-60
 君をしぞ思ふ 37-31
 草のはら 90-48
 国ならむ 117-68
 くにも 33-24
 雲に吹く 33-23
 くものうへに 42-34
 雲のはてにも 17-12
 くものほか 33-24
 くものゐる 98-55
 くもらぬ月の 110-63
 くれまつと 36-29
 けふよりや 19-15
 心地こそすれ 118-69
 心もともに 17-13
 ことぞかなしき 98-55
 ことの葉までは 111-65
 恋ひしなば 12-3
 恋ひしぬばかり 13-4
 恋すもあらじ 111-64
 こひだにみばや 34-26
 恋ひば人みて 14-7 (「恋ひ」に「火」の
 意を掛ける「恋ひ」「燃え」「投木」「焚
 く」は縁語)
 こひもしぬべき 12-3
 恋ふともしらぬ 72-39
 これもや世世の 20-18
 これゆゑぞ 105-61
 さすらへて 120-70
 郷ながら 59-35
 さむる日ぞなき 89-45
 さめてわかれぬ 80-43
 さめぬよの 42-33
 さやかにてらす 42-34
 しげきわがこひ 15-9
 したふべき 19-15
 しのばるる 99-58
 しのばれば 89-46
 しら雲の 98-56 (「白雲」に「知らず」の
 意を掛ける)
 しらざりし
 ーおもひをたびの 34-25
 ーもろこし舟の 103-59
 ーわかれにそへる 20-18

- しらぬうき世に 120-70
 しらぬさかひの 72-38
 しらぬ世も 120-71
 しられても 98-55
 しりぬべき 14-7
 すがたばかりは 111-65
 すぐす月日を 13-4
 すどがたけがき 16-11
 すむそらの 16-10
 そでかけのやも 12-2
 袖はぬれつつ 36-29
 そへてたくかな 14-7 (「焚く」「燃え」「恋
 ひ」「投木」は縁語)
 空ごとに 96-54
 そらにしりにき 33-23
 そらにみゆらし 42-34
 それかとにほふ 79-41
 それかともなき 117-68
 それとだにみむ 91-49
 たえてつれなき 98-56
 たきつくすがに 14-8 (「焚く」「消え」「燃
 え」「投木」は縁語)
 たぐひなば 18-14
 たぐへける 21-20
 たぐへやる 17-13
 ただなほざりに 105-61
 たちかへりみよ 17-13 (「立ち返る」「千
 重の浪」は縁語)
 たちなるる 98-56
 たちははなれず 59-35
 たづねても 91-50
 たづねても見よ 110-63
 たのめおくとも 105-61
 たまきはる 37-31 (枕詞)
 たまのをごとの 36-28
 たまのをの 37-30 (枕詞・「緒」に「命」
 の意を掛ける)
 たゆるほどなき 37-30
 たれかいそがむ 91-51
 たれかその 13-4
 ちぎりしひけば 117-67
 契りなるらむ 20-18
 契りゆゑ 36-28
 ちぎるその日は 38-32
 ちへのなみまに
 ーうきしづみ 118-69 (「千重のなみ」
 「うき」「しづみ」は縁語)
 ーたぐへやる 17-13 (「千重のなみ」「立
 ち返る」は縁語)
 ちへの浪わけ 18-14 (「千重の浪」「風ぐ」
 は縁語)
 月かけは 22-22
 月こそものは 80-42
 月ぞかなしき 72-38
 月とだに見ば 71-37
 つきななむ 36-27
 月にたのめし 36-29
 月のかつらに
 あまつそらなるー 90-47
 ー露の身を 90-48
 月のゆくへを 36-27
 月日とか 91-50
 月日のいるを 19-15
 月日へて 12-3
 つたへしことの 34-26
 露のその名し 13-6 (「露」に「少し」の
 意を掛ける)
 露の身を 90-48
 てなれぬる 36-28
 てにとれば 90-47
 てる月の
 ーおよばぬ空に 71-36

- 一ひかりをそでに 117-66
 とばかりも 72-40
 とはばいくかの 91-50
 とはばやな 79-41
 とひこむ人は 33-23
 とひもこで 99-58
 とひもこぬよに 99-57
 とほつさかひの 33-24
 ともなふ舟の 21-21
 とりぞあやしき 99-58
 鳥のねの 96-54
 ながき夜の 13-5
 ながきよもがな 80-43
 ながき別れを 89-46
 なかたえば 91-49
 ながらへて 13-4
 なきものを 106-62
 なげきをさへに 14-7 (「歎き」に「投木」
 の意を掛ける、「投木」「恋ひ」「燃え」
 「焚く」は縁語)
 なににいのちを 38-32
 なにの木草の 106-62
 なほみだるべき 37-30
 なみかこゆべき 120-71
 なみこす袖の 120-70
 なみぢより 33-23
 なみぢゆく 20-17
 なみのうへかな 21-20
 なみのほか 59-35
 なれをぞたのむ 99-57
 庭のしらぎく 11-1
 ぬるるをやみむ 120-70
 ぬれかゆくべき 13-5
 ねにたてて 34-26
 ねぬ夜にゆめの 89-45
 はつせなる 117-67
 はつせのや 117-66
 はてもなく 71-36
 花かまがはむ 106-62
 はなれざるべく 36-27
 はるかなり 38-32
 はるかにて 19-16
 はると秋との 80-42
 ひかりをそでに 117-66
 人しらむかも 11-1
 人にしられむ 91-50
 人にはやすき 81-44
 人のこころの 117-68
 人のこころや 21-20
 人のなげきは 14-8 (「歎き」に「投木」
 の意を掛ける、「投木」「消え」「燃え」
 「焚き」は縁語)
 ひとりみやこに 19-16
 ひとりやさめぬ 81-44
 ひまもなく 16-11 (「ひまもなく」は「あ
 らたまのおどがたけがき」を序詞とす
 る)
 ふたたびみえぬ 79-41
 ふりすつる 81-44
 ふるさと人は
 一とひもこで 99-58
 一とひもこぬよに 99-57 (「降る」に「故
 里」の意を掛ける)
 へだてそふらし 16-11
 ほかにして 20-17
 ほととぎす 99-57
 まがひける 90-47
 ましてくるしも 15-9
 またあふまじき 95-52
 またかばかりの 33-24
 または世に 106-62
 まちょうけてみる 117-66

- まつ夜むなしき 96-54
 まつらの宮に 19-15
 まつらの山も 19-16
 まつらの山を 20-17
 まどう心は 71-36
 まどろまず 89-45
 まよふゆめぢを 91-50
 みえしより 89-45
 みかさの山の 22-22
 身さえかはれる 118-69
 みだれなむ 71-37
 道しるべせよ 95-53
 道なれば 120-71
 見てしかば 14-8
 みなとより 103-59
 みなれては 111-64
 身にしむころを 95-52
 身にそふとこは 72-39
 身にそへて 34-25
 みねにわかれむ 98-55
 みねばうし 38-32
 身のちぎりかな 37-30
 みやのしらぎく 12-2
 みるごとに 72-38
 身をかへて 120-70
 身をくだきつつ 103-59
 身をばをしまじ 37-31
 みをもなぐがに 18-14 (「身を」と「滞」,
 「投ぐ」と「凧ぐ」は掛詞, 「身」と
 「投ぐ」, 「滞」と「凧ぐ」は縁語)
 むくひにて 20-19
 むなしくなりぬ 16-10
 むねのせきかな 96-54
 むむめが香に 79-41
 村雨の 99-57 (枕詞)
 もえにもえて
- 一恋ひば人みて 14-7 (「燃え」「恋ひ」
 「投木」「焚く」は縁語)
 一人のなげきは 14-8 (「燃え」「消え」
 「投木」「焚き」は縁語)
 ものおもふらむ 20-19
 もらさずば 13-6
 もろこしの
 一雲のはてにも 17-12
 一ちへのなみまにうきしづみ 118-69
 一ちへの浪まにたぐへやる 17-13
 もろこし舟の 103-59
 もろこしや 117-68
 もろこしを 19-16
 やまずのみ 15-9 (「やまず」は「あしひ
 きの山のやまどり」を序詞とする)
 山のしづくに 36-29
 山の端を 16-10
 山のやまどり 15-9
 やまはそことも 98-56
 山もいづれと 98-55
 ゆくかたさらぬ 71-37
 行くかたも 110-63
 行く舟の 95-53
 ゆくへしらずも 21-21
 ゆくへもしらず 71-36
 ゆづきがしたに
 一かげはみえけり 117-67
 一てる月の 117-66
 ゆめならば 91-51
 ゆめにまどはむ 81-44
 ゆめのうちを 80-43
 ゆめのただちの 89-46
 夢のただちを
 一うつつにて 42-33
 ふたたびみえぬ— 79-41
 夢もむすばず 72-39

ゆるさぬ袖ぞ 72-40	わかれてはてぬ 95-53
よしここに 36-27	わかれなるらむ 42-33
よそなるくもも 71-37	わかれにそへる 20-18
よなよなみゆる 91-51	わかれのみちを 91-51
世の中を 37-30	わかれやはせし 33-24
世の別れかな 95-52	わすられぬべき 111-64
よよの別れの 20-19	わすれ草おふる 117-68
よるの雨かな 34-25	わすれじと 34-26
よろづ世までに 13-6	わたの原 21-21
わがおもふことは 42-34	我こそけなめ 14-8 (「消え」「燃え」「投
わがこふらくは 16-10	木)「焚き」は縁語)
わがこまつとて 19-15	われながら 72-40
わがくに人に 59-35	われのみあけぬ 96-54
我がたまのをは 36-27	我も命の 105-61
わがふななりに 22-22	われやながめむ 19-16
わが身とかしる 12-3	われわすれめや 13-6
わが身ならねば 111-64	をしまれむ 105-61
わかれかな 20-18	をしみても 105-60
わかれちを 81-44	をばすて山の 72-38